

バスケットボールを通じて、アメイジング・キッズを育てたい。

今こそ育成のプロへ。

2006年に富山グラウジーズにドラフト1巡目で指名され、プロバスケットボール選手になりました。その後、さまざまなチームでプレーし、日本プロバスケットボールbjリーグのオールスターゲームに3度出場、シーズンオフにはアメリカリーグへの挑戦と、11年のプロ生活はとても充実したものでした。引退後の今は、富山でバスケットボールスクールを開校しています。

セカンドキャリアを考え始めたのは、プロ時代の怪我がきっかけ。バスケット以外の知識を得るために、脳機能学や経営学などあらゆる分野の本を読みました。そのなかで「好きは努力に勝る」ということを知り、自分は何が好きなのか見つめ直したんです。そして、たどり着いたのが、バスケットを通して社会で活躍できる人間を育成したいという思いでした。

子どもたちの基礎づくり。

スクールの^{グラウンドワーク}groundworkには現在、約100名の子どもたちが所属しています。その名の意味は、「基礎工事」。人間の運動能力が最も発達するのは10歳までと言われています。その子どもたちに必要なことは、体と脳のベースづくり。バスケの技だけでなく、子どもたちの発想・想像力を尊重し自主的に行動、判断、決断することをコーチングしています。

また、学生時代に恩師から教わった「バスケット選手である前に、^{ばすけつと}場助っ人選手であれ」という言葉に大きな影響を受けています。僕自身、社会や地域で必要とされる「場を助ける人」でありたいですし、そんな人を育てていきたいと思っています。

バスケの本場アメリカの環境を子どもたちに体験させたいと、年に数回、世界最高峰のチームで活躍している外



▲ スクールで子どもたちに指導をする様子

国人コーチなどを招いて指導を行っています。このような機会を増やし、世界に通用するアメイジング・キッズの育成を目指しています。

バスケットで富山に恩返し。

今、富山では、^{はちむらひ}八村塁選手の米プロバスケットボールNBAチームへの入団や、富山グラウジーズのBリーグチャンピオンシップ初出場、そして10月には3×3ジャパンツアー富山大会が開催されるなど、バスケット熱の高まりを感じます。

僕は生まれも育ちも沖縄ですが、支えてくれる家族ができた富山に活動拠点を置くことにしました。とても親切な人が多い地域性をそなえた富山は、プロとして活躍できるだけでなくセカンドキャリアも輝かせてくれる場所だと感じています。これからも自分が培ってきた知識や技術、人のつながりを、できるだけ富山に還元していきたいですね。



呉屋貴教さん

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング（驚くほど素敵）」な富山について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶ 詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



▲WEBサイト

呉屋貴教(ごや たかのり)さん
1983年生まれ、沖縄県出身。元プロバスケットボール選手。2006-07、15-16年に富山グラウジーズ在籍。2017年よりバスケットボールスクール開校。